

富山県富山市

■ 調査項目

デイケアハウス「このゆびと一まれ」について

・ 調査対応者

特定非営利活動法人

デイサービス このゆびと一まれ

理事長 惣万 佳代子氏

・ 調査期日

平成28年12月19日(月) 13時～16時

・ 調査目的

「富山型デイサービス」と呼ばれる施設が、今では全国に約1,400ヶ所にも及ぶ数となっている。

共生型(子ども, 高齢者, 障害者)の小規模福祉施設が3人の元看護婦さんの手により開設され、全国に普及している現状の把握と今後の展望について調査することを目的とする。

・ 調査内容

1. 設立に至った経緯

2. 縦割行政施策施設のあり方

3. 施設の定員(本家22人, 向かい18人)

4. スタッフの人数と就労時間(28人体制)

5. 泊まりについて(金, 土, 日)

6. B型作業所について

平成5年に日赤病院の看護師3人で独立し、民家を改良して「民間デイサービスこのゆびと一まれ」を始められた。その後、道路を隔てた民家を購入し、施設の拡充を図った。他にもう1ヶ所施設を増やし、計3つの施設を運営している。

きっかけは、日赤病院に入院していたお年寄りが「家に帰りたい」と泣くのを見て、決意したとのことである。当時だけでなく現在もその傾向が強く出ているが「子ども」、「障害者」、「お年寄り」を区分けした行政の方針が強く、施設も各々が独立しており、補助金のあり方も施設に重点をおいたものであったが、共生型・複合型の発想は全く疎外されていた。開設した初めの7年間は理解をしてもらえず苦労の連続であったそうだが、民間の篤志家が1,500

万円の寄付をして下さったことから、富山県や市から補助をしてもらえるようになり徐々に認められ、国も注目してくれたそうだ。そのような中、平成19年に秋篠宮様が来園され、平成22年には故三笠宮様が来園されことにより、富山県や市も無視できず、むしろこれを機に「富山型デイサービス」として全国に発信するようになり、自慢の方式として取り組み、さらには富山県下各小学校区に一ヶ所、施設を配置する方針を打ち出すまでとなっている。また、同施設ではB型の作業所の受け入れも始めており、障害者の方がしっかりと介護を行い、給料を受け取り自立もしている状況であった。認知症の女性（高齢者）が泣いている乳児を抱いて、おっぱいを飲ませようとした事もあるそうで、まさに共生型の特徴と意義がよく現れていると感じた。

スタッフは、看護師、保育士、介護士の資格を持った人が配置されているが、施設の運営上、必要不可欠であることを実感した。

【質疑応答】

特になし

【呉市での展開の可能性】

呉市において共生型の施設は、現在のところ数は少ないのではないかと思うが、今後間違いなく普及してくるものと思われる。また、そうであってほしいと願う。

■調査項目

グリーンピア大沼の運営について

・調査対応者

グリーンピア大沼株式会社

代表取締役社長 宮田 富夫氏

総支配人 中村 圭

・調査期日

平成28年12月21日(水) 9時～11時

・調査目的

呉市所有のグリーンピアせとうちは、指定管理者制度により株式会社ゆうとぴあせとうちに運営委託されているが、経営状態も悪化する中で施設使用料を無料とし、平成29年度までの2年間、随意契約を行い、継続運営をさせている。この間にコンサル会社に依頼し、売却を含めた検討をすることになっている。最近になってグリーンピア三木が民間へ売却され、また、グリーンピア大沼も民間に5000万円で売却された事を知り、その実態を調査することによりグリーンピアせとうちの今後のあり方を検討する参考とするためである。

・調査内容

1. 売却金額	5000万円
2. 売却条件	設立の趣旨を遵守すること
3. 特約事項	10年間転売禁止。買い戻し特約付き。担保可。
4. 運営方針(経営方針)	まず地元から
5. 営業活動の内容	毎月「グリーンピア大沼新聞」発行(2～3万部)
6. 来場者数	35万人(外国人2割弱,日本人8割強) 50km圏内50%
7. 売上	6億円(ホテル50%,その他50%)

グリーンピア大沼は、開設者である年金福祉事業団により、地元の森町が1億5000万円で購入し、管理運営を株式会社グリーンピア大沼が賃料年間2000万円を支払って、経営を始め1年が経過している。株式会社グリーンピア大沼は、10年目の節目に当たり、森町に対して購入の申し入れを行い、検討の結果、森町は5000万円で売却する決定を行った。森町からすれば、こ

のまま施設を所有していると今後7～8億円くらいの改修費が見込まれ、町の財政規模からすると大きな負担となることが明白であり、施設の維持が困難となる。施設の固定資産評価は4800万円で、町にとって将来的に見ると安定した固定収入を見込めることから、メリットは大きいと判断し、議会も賛成多数で売却することを可決した。さらに町は、使用料として徴収していた年間2000万円を基金として別途会計で積み立ており、その額は10年間で2億円となっていた。その中から1億5000万円を今年から3年間、補修費等として使用する条件で譲渡を決定している。加えて、向こう10年間に固定資産税として支払われる4億8000万円の中から、維持管理費として3億3000万円を助成することとしている。助成金額は合計で4億8000万円となる。特約事項として、10年間は転売禁止と買い戻すことを明記し、担保に入れる事を可能とした。

年間入場者数は35万人で、そのうち日本人の入場者は8割であり、50km圏内の方が50%占めており、地元の方が多数利用している状況である。また、広報活動として「グリーンピア大沼新聞」を毎月2～3万部発行し、戸別配布を行い地元密着を図っている。

従業員の定着率も良く、給料も充分支給できている。年間売上げは約6億円で黒字経営を維持できている。

【質疑応答】

特になし

【呉市での展開の可能性】

呉市は「グリーンピアせとうち」について、平成29年6月には今後の方針を発表するとのことであるが、売却の方針でいくなれば、グリーンピア三木よりもグリーンピア大沼の手法の方が適しているように思われる。

いずれにしても、呉市の宝物として捉えていただき、慎重に対応していただきたい。

地元の人達に、より親しんでいただける施設として活用され、維持されることを願いたい。